

佐賀・吉野ヶ里遺跡群



- 1 所在地 佐賀県神埼郡神埼町大字志波屋・鶴
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）四月～一九八八年一月
- 3 発掘機関 佐賀県教育委員会
- 4 調査担当者 七田忠昭・森田孝志・田島春己・草野誠司・田代成澄・桑原幸則
- 5 遺跡の種類 官衙跡・集落跡・墓地跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～古墳時代、奈良・平安時代、中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉野ヶ里遺跡群は、佐賀平野の中央東寄り、脊振山地南麓から南へ細長く派生する吉野ヶ里丘陵周辺に存在する遺跡群の総称である。一帯約六五haの地域が工業団地として造成されることになり、文化財保存地区を除く約三二haの地区について、一九八六年度から三年計画で発

二カ年の調査の結果、弥生時代の大規模な集落跡・墓地などとともに、奈良時代～平安時代前期の掘立柱建物約二〇〇棟・井戸約四〇基・土壙多数、奈良時代の駅路跡などが検出された。周辺の発掘調査の成果を踏まえ、駅路の北方二町の位置（復元神埼郡六条竹原里一四・一五・二三・二三坪）に方二町の神埼郡衙の存在を推定している。この区域を画すると考えられる溝から青銅製帶金具が、区域内から「厨鉢」のヘラ書土師器が出土した。周辺には大規模な建物群が計画的に配置されたいくつかの区域があり、そこからは陶硯や水滴、墨書・ヘラ書土器が多数出土し、郡衙の周辺に館その他の施設が存在したことを裏付けているが、駅家の可能性もある。

一九八六年度に駅路の南約二五〇mに位置する吉野ヶ里遺跡の井戸から木簡一点が出土し（『木簡研究』第九号）、一九八七年度には、志波屋三の坪（甲）遺跡と志波屋四の坪遺跡から計八点の木簡が出土した。

志波屋三の坪（甲）遺跡は郡衙推定地の北東に接する官衙的な建物群や井戸、多数の土壙などからなる遺跡で、奈良時代の二基の井戸SE一八・SE六四からそれぞれ五点・一点の木簡が出土した。SE一八は径約一・九m、深さ約一・六mの平面円形の井戸で、井戸枠は残存していない。木製鋤・曲物などを伴出した。SE六四是径約二・一m、深さ約四・二mの一段素掘りの井戸で、「田」と墨書された須恵器を共伴している。

志波屋四の坪遺跡は一二五棟以上の掘立柱建物・井戸・土壙・溝などからなる広範囲な遺跡で、その南端には駅路跡が存在する。駅路跡の南約二五mに位置する奈良時代の土壙SK-100四は、径約五・五m×七・七m、深さ約一・二mの、平面が円に近い不整形の土壙であり、木簡「点が「廊」「丙殿」「丑殿」「第君」「阿米」「山田」「糖」などの一七点の墨書須恵器、数点の転用硯などとともに出土した。

8 木簡の釈文・内容

志波屋三の坪(甲)遺跡井戸SE-1A

- (1) 「□□□^[郡カ]」
(2) 「日下部鳥甘」
(3) × □向^[申久カ]□□□
(4) • 「□養養^[訪カ]」
• 「養 □□」

(66)×26×5 019
195×19×5 051
(129)×25×2 059

志波屋三の坪(甲)遺跡井戸SE-六四

- (4)
• 「□養養^[訪カ]」
• 「養 □□」

110×23×3 011

志波屋四の坪遺跡土壙SK-100四

(5) • 「□五月十□□□□□」
〔日稻カ〕
〔命カ〕
(211)×38×4 019

以上の他に長さ四八cmの○二一型式や、○三一型式の木簡もあるが、荒削りの部分が残っており墨痕もなく、未使用と考えられる。

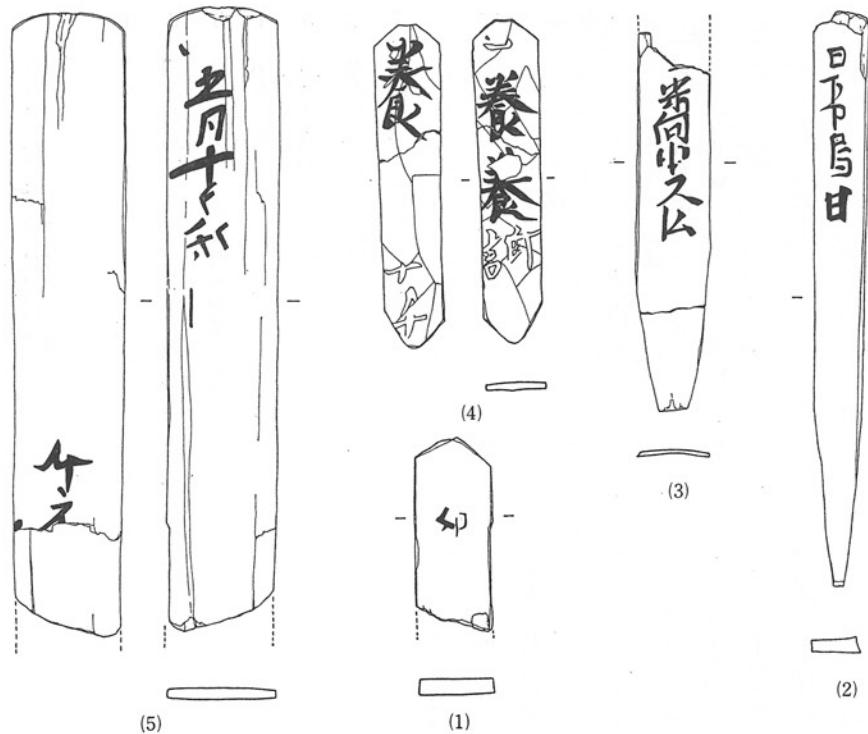
なお、木簡及び墨書土器の釈読については九州歴史資料館倉住靖彦氏に御教示いただいた。

9 参考文献

佐賀県教育委員会『吉野ヶ里を掘る——神埼工業団地内文化財発掘調査現地説明会資料』(一九八七年)

(七田忠昭)

1987年出土の木簡



木簡研究 第六号

卷頭言——記紀批判と木簡——

直木孝次郎

一九八三年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 平
城京左京八条三坊十一坪 東大寺仏餉屋下層遺構 藤原宮跡 長
岡宮・京跡 平安京右京八条二坊 定山遺跡 水走遺跡 津堂遺
跡 高宮遺跡 池上・曾根遺跡 万町北遺跡 山垣遺跡 福成寺
遺跡 沢田宮谷遺跡 長尾沖田遺跡 小川城遺跡 道場田遺跡
宮久保遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 東光寺遺跡 北大萱遺跡
篠脇遺跡 北稻付遺跡 鯉沼東Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀城跡
一乘谷朝倉氏遺跡 近岡遺跡 曾根遺跡 前田遺跡 美作国府跡
草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 芳原城跡 大宰府跡

一九七七年以前出土の木簡（六）

平城宮跡（第三二次）

平安時代の日記にみえる木簡

日本古代の人口について

彙報

『木簡研究』一～五号総目次

価額 三五〇〇円 □四〇〇円

山田 英雄
鎌田 元一